

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果(藤沢小学校)

平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数・数学	理科
藤沢小	下回った	下回った	
埼玉県	68	62	
全国	67.2	62.5	

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	藤沢小	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	100	94.4	93.9
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	90.6	83.1	81
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	95.3	91.7	90.5
	新聞を読んでいる(週に1回程度以上)	8.1	12.4	12.6
学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	79.1	73.4	70.7
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる	83.7	80.9	77.4
	昨年度までに受けた授業で、課題解決に向け、自分で考え、自分で取り組んでいた	87.2	83	78.8
	学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強をしている(学習塾等で勉強している時間も含む)	67.4	59.4	57.1
教科への関心	国語の勉強は好きだ	69.7	61.6	61.5
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	94.2	94	92.8
	算数の勉強は好きだ	67.5	61.2	61.4
	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	95.4	94.1	93.3
	英語の勉強は好きだ	77.9	69.6	69.3
	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う	66.2	54	52.5
主体的・対話的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	87.2	83	78.8
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	68.7	68.4	63.7
	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	80.2	79.5	74.4
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた	88.4	84.7	81.8
その他	自分には、よいところがあると思う	88.4	85.6	83.5
	将来の夢や目標をもっている	91.8	82.7	81.5
	人の役に立つ人間になりたいと思う	98.9	96.3	95.9
	今住んでいる地域の行事に参加している	69.7	56.8	57.8

公表

【質問紙分析】

- ・朝食、寝る時刻、起きる時刻はどれも全国、県の数字を大きく上回っており生活習慣が身につけていることがわかる。
- ・教科への関心も、全国、県を上回っており、中でも国語、算数、どの教科も将来役に立つという意識が高かった。
- ・その他のところも全ての項目で、全国、県を上回り、自己肯定感が高いことが伺える。
- ・「新聞を読んでいる」に関しては、全国、県同様に低い数値であった。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

- ①三 (3) 「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができる。」 (100%)
- ②一 「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。」 (95. 2%)
- ①二 「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。」 (25. 0%)
【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法の両方を書かなくてはならないが、片方しか書いていない。
- ②四 「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。」 (58. 3%)
資料を読み、運動と食事の両方についてわかったことをもとに、自分ができそうなことをまとめ書かなくてはならないが、書けていない。
- ③三 「日常よく使われる敬語を理解している。」 (46. 4%)
敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択することができていない。

【算数】

- ① (1) 「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができる。」 (96. 4%)
- ① (2) 「伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができる。」 (90. 5%)
- ② (2) 「正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる」 (83. 3%)
- ② (3) 「正三角形の意味や性質について理解している。」 (21. 4%)
切って開いた三角形を正三角形にするためにテープを切るときのAの角の大きさがわかりにくい。
- ② (4) 「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」 (15. 5%)
テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大きさについて分かることを選んだが、選んだわけを書くことができない。
- ④ (1) 「百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる。」 (39. 3%)
示された基準量と比較量から、割合が30%になっているものを選ぶ。

課題への取組・改善策

【国語】

- ・再度同じ問題をクラスで扱い、解かせる。そして自分は何が間違っていたかをふり返らせる。
- ・昨年度、一昨年度の等、過去の全国学力・学習状況調査の類似問題に取り組みせ、設問にある条件を使って文章を書くことに慣れさせる。
- ・毎週月曜日の「ガッツタイム」でコラム学習(新聞などの記事を読み、分かったことや自分の意見などを文章で表す。)に取り組む。
- ・学力向上PJで100%達成を目指し取り組む。
- ・週末作文に取り組む。
- ・どの教科でも授業の最後にふり返りを書かせるなど意図的に書く機会を増やす。

【算数】

- ・再度同じ問題をクラスで扱い、解かせる。そして自分は何が間違っていたかをふり返らせる。
- ・毎週木曜日の「もくもくタイム」で、学力テストで出題された問題や練習シートに取り組む。
- ・記述式の問題に課題があることから、普段の授業において、自分の考えを筋道立ててノートに説明することができるようにする。自力解決では、式と答えを書いて終わりではなく、他者を説得できるように図、表、グラフ、言葉なども用いて分かりやすく表現することを意識させる。
- ・学力向上PJで100%達成を目指し取り組む。
- ・類似問題を練習問題として授業の中にも取り入れる。
- ・コバトンのびのびシートを活用し、苦手問題の克服に努める。

【その他】

- ・本校では夏休みの職員研修で、今年度の6年生が苦手としていた問題に取り組み、その問題はどの学年のどこに当たるのかを確認、指導方法を検討した。
- ・6年生の学力調査の結果ではあるが、全学年に共通する課題も多く、学校全体での取り組みを確認した。